CCIちば 女性技術者が就職後押し

習志野 千葉工業大で座談会

県魅力ある建設事業推進協議会（CCIちば）は2日、習志野市の千葉工業大学津田沼校舎で、大学3・4年生12人を対象に、建設業が持つ魅力を伝える「女性エンジニアとの座談会」を開いた。将来の職業を考える学生に、女性技術者の目線で職場の雰囲気、やりがい、キャリアアップなどについて話し、学生の不安を解消するとともに、就職活動を後押しした。

講師（パネリスト）には、畔蒜工務店建築部（横芝光町）の高野加津美氏、J-POWER設計コンサルタント土木設計部設計室（東京都千代田区）の田代菊子氏が務めた。

座談会は3つのテーブルに分かれ、学生が4人ずつ座り、各パネリストが学生らの質問に答える形式で進められた。

パネリストは、学生時代の就職活動を振り返りながら、どのような基準で企業を選び、決め手となったかや、現在の職務、入社後からの経歴などについて話した後、学生からの質問に答えた。

学生からは、「結婚、出産のタイミング」「キャリアプラン」「残業」「出張」「同僚や上司との関係」「女性ならではの目線で仕事上に困ることなど」の質問が出された。育児休暇取得後に復帰した北田氏は、周囲の環境・仕事・同僚・上司・先輩・後輩への変化について「以前より仕事についていろいろな角度から考えられるようになった」とし、「社員の長所を見つけ、適材・適所の考えで業務をバックアップ、指導、協力してくれる雰囲気が社内にはある」などと話した。

参加した学生からは、「女性技術者目線での話が聞けたことは貴重な機会だった」「目標・夢などを話した」「将来、やりがいがあり、社会の役に立つ仕事について今後も考えたい」などの意見が出された。

座談会終了後、記念撮影に臨んだ参加メンバー

キャリアや経験を話す講師の（左から）高野氏、北田氏、田代氏

3班に分かれローテーションで3人の講師から話を聞いた

牧野氏「技術を次の世代に」

国交大臣表彰の受賞祝賀会　ちば測協

県測量設計業協会（ちば測協・横打研会長）は6日、7月に国土交通大臣表彰を受賞した八紘測量開発（東金市）代表取締役社長で、ちば測協副会長の牧野光秋氏の祝賀会を千葉市内のホテルで開いた。出席した100人は、牧野氏の功績を称えたたえるとともに、受賞に祝意を表した。

牧野氏は、ちば測協のほか、県測量設計補償協同組合、県建設コンサルタント業協会など各団体の役員として多方面で手腕を発揮し、特に、千葉県東方沖地震、東日本大震災の際は、県内の被災箇所の技術的な相談を受け、関係市町とともに復興を支えた。

ちば測協では、2024年5月から副会長に就任し、県民を対象とした「ちば地図展」小学校測量体験実習」などを通じ「地域社会に信頼される協会」の発展に努め、測量設計業協会に貢献するなどした。

牧野氏は、祝賀会に出席した来賓に感謝の言葉を伝えた後、「受賞は身に余る光栄だが、決して個人の力ではない。私を支えてくれた諸先輩、ともに汗を流した同僚、社員などすべての関係者の力のおかげだ。測量設計は、技術革新の中にあるが、そんなかで、発展の一翼を担うことができたのは、公益性のある測量設計の成果だと考えている」などと述べるとともに、「技術者次の世代につなげるためにも、技術力の向上と、人と人との絆を大切にしていく。関係者に心からありがとうと伝えたい」と話した。

祝賀会発起人を代表して横内義昭氏は、牧野氏の人柄の信頼も厚く、職務においては測量・建設に関する幅広い知識を持っていて、関係する同業者や社員に心からの敬意を表し、受賞の祝意を示した。

記念品や花束が贈呈され、ちば測協相談役の吉里弘相談役が、牧野氏と測量業界の功績をたたえ、乾杯の発声後、出席者は牧野氏の受賞を喜び合った。

横打会会長からの記念品や花束の贈呈を受ける牧野氏右

これまでの関係者に受賞の喜びを伝える牧野氏

発起人代表であいさつする横打会長

古里相談役（右から2人目）の乾杯の発声で祝賀がスタートした

県解体組合 36人が地域貢献活動

千葉ポートパーク清掃

県解体工事業協同組合（市原照会理事長）は11日、恒例となっている千葉市内での清掃ボランティア活動「千葉ポートパーククリーン作戦」を展開した。当日は、市原理事長をはじめ会員・賛助会員あわせて36人が参加し、道や林、海岸沿いまで公園内全域を一掃に清掃した。県民とともに歩む団体として地域の美化に貢献し、組合としさらに連携を強化している。

活動開始に先立ち市原理事長は、組合事業の一環として環境の保全に貢献するために継続して実施している今回の清掃活動の重要性をあらためて強調するとともに、県測量設計事業協同組合の理事長として作業では、効率よく進めるために、各班が回収するごみの種類を決め、関係者に迅速で正確に処理する実行力と企画力・提案力に優れ、新技術の積極的な導入で安定的な会社経営に手腕を発揮している」などと述べた。

市原理事長

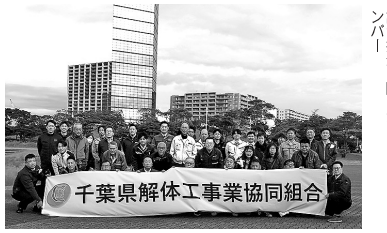
「女性技術者目線での話が聞けたことは貴重な機会だった」「目標・夢などを話した」「将来、やりがいがあり、社会の役に立つ仕事について今後も考えたい」などの意見が出された。

内北寄りに位置するポートタワーから公園南端にある集積所に向かってごみを拾いつつ移動。ルールに従って分別し、それぞれ廃棄した。

清掃後、再び集結した参加者にねぎらいの言葉をかけた市原理事長らは、組合が進めている参加型の運営について、賛助会員らを対象に総務・事業・広報・施工の各委員会活動の説明や、今後の活動内容の紹介などを行い、さらなる理解と協力を求めている。

同組合による清掃活動は9年にスタートし今回で通算16回目を数える。

互いが連携し地域のさらなる美化に努めた



清掃活動後に、ポートタワー前で記念撮影に臨むボランティアのメンバー

これまでに三番瀬や千葉マリンスタジアム（ZOZOマリンスタジアム）周辺での美化活動も展開しており、ポートタワーは13回目となる。同組合は、今後も県民とともに歩む団体として、さまざまな活動を推進していく。

クリーン作戦に参加した企業は次の通り。

【正会員】
▽大同産業▽三勢▽山田建設▽小鳥解体▽聖和興業▽大業開発▽柴田組▽青木総業▽丸徳興業▽石井興業▽ハマダ▽シンコー▽ナイキ▽裕木工業▽海成▽カンナ▽富澤商▽イケダ▽真工業▽村上建設▽島村商会▽ナガミネ▽竹内建設▽幸将

【賛助会員】
▽日本キャダピラー▽日立建機日本▽アクティオ解体▽田口クリエイト▽新光重機▽コマツカスタマーサポート▽シナネンエコトーク▽フルハシEPO▽コベルコ建機日本

日本大学が最優秀賞に

地盤工学会関東支部

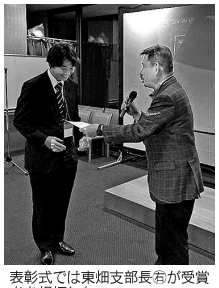
地盤工学会関東支部（東畑郁生支部長）は、学生たちによるショート動画コンテストを実施した。関東支部20周年を記念して企画されたもので、テーマには「地盤」を設定。地盤の役割や面白さなど、参加者が考える多彩な「地盤の世界」を動画配信サイトのシュート動画として全世界に配信し、地盤工学の発展につなげる。最優秀賞は日本大学チームの「力チカチ山」が受賞している。

同コンテストは、関東地区の大学や工業高等専門学校、工業高校、一部の普通高校を対象に一分弱の作品を募集したもので、日本大学の日本大学チームをはじめ、10月のソイルストラクチャーコンテストで総合優勝を果たした東海大学の3・5チームや、同大の3・01チーム、同大の2025秀賞、3・5チームによる「土の物性試験と積み上げ試験」が支部長賞、岩盤工学研究室チームによる「地中の声を聴く工学」が関東地質調査業協会賞に、それぞれ輝いている。また、日本大学チームは発表会の参加者による人気投票「グッド（ぐっど）動画賞」も受賞している。

「地盤テーマに動画コンテスト」

SUGI-LABOチーム、宇都宮大学の岩盤工学研究室チーム、関東学院大学のケインデットチーム、栃木県立那須清峰高等学校の那須清峰チームから全7件の応募があった。

8月までに提出された動画について地盤工学会関東支部役員ら審議員ら47人が審査。その結果、地盤改良技術で軽量化した土の船によってタヌキの寿命を少し延ばせられたという内容を表現した日本大学チームによる「力チカチ山」が最優秀賞、3・5チームによる「土の物性試験と積み上げ試験」が支部長賞、岩盤工学研究室チームによる「地中の声を聴く工学」が関東地質調査業協会賞に、それぞれ輝いている。また、日本大学チームは発表会の参加者による人気投票「グッド（ぐっど）動画賞」も受賞している。


表彰式では東畑支部長右が受賞者を祝福した

日大の作品では現代の地盤工学を活用した泥船（下の円形）で、タヌキの延命化を表現した

利活用へ市場調査

酒々井町

酒々井町は、酒々井総合公園や周辺居住民などの利活用に向けたサウンディング型市場調査を開始した。町では、墨地区にある酒々井総合公園の再整備にあたり、その周辺を含めたエリアに配置されている町有施設の利活用について一体的な検討を行っている。

スケジュールは、18日までに申し込みを受け付けた現地見学会を21日に実施し、26日から12月3日まで参加申し込み、12月8日から同月11日までにそれぞれ受け付け、12月15日から同月17日まで意見交換し、26年2月の結果を予定している。そ

今回の市場調査で意見交換を求める内容は、関心のある施設や応募者が向けて調査しり年度以降の事業者公募を予定している。

現時点で事業手法は、公共施設全般を対象としたDB、DBO、PFI-RO、指定管理者、利用料金を収受する公共施設を対象としたコンセッション、公園のみを対象とした設置管理許可やPark-PFI、行政財産以外の公有財産を対象とした賃貸借を想定している。

対象となる面積約12・4haの酒々井総合公園は町内最大規模の公園施設で、主な施設として天然芝の野球場や球技場、テニスコート（芝4面・土2面）、多目的グラウンド、広場（多目的広場など、2カ所で約100台を収容できる駐車場、駐輪場、管理事務所が配置されている。

また、同公園との一体的整備も視野にある酒々井地区の古民家の施設のうち旧助家は明治時代中期以前に建てられたもので、構造規模は木造2階建て延べ163㎡。中心市街地に近い佐倉街道沿いの施設で外壁や窓などの一部修繕が済んで屋約186㎡のまるとしやすい。飯積地区で地元の農産物などを販売する地域創造発信拠点、0・3ha規模の飯積東公園も対象となる。酒々井総合公園パークPFI導入調査業務委託は日本経済研究所（東京都千代田区）が担当。

町の景観を彩る顔としての利活用が期待されている。

このほか、木造2階建て約123㎡の下宿棟を対象に、2カ所で約100台を収容できる駐車場、住宅をリノベーションし「ハナヤギ・ベラー」の施設や、RC造平屋の「ハナヤギ・ベラー」の施設の一部修繕が済んでおり、建屋以外にも敷地に余裕があるため多様な利用が可能とした。

もう一方の古民家「旧相家」は大正時代に建てられたもので木造2階建て延べ約143㎡の構造・規模。歴史的建築物が多数立地する旧酒々井宿エリアに位置しており、僧者発表の参加企業に誤りがあるとして訂正いたします。太田建設を追加して訂正いたします。

訂正　12日付2面に掲載した柏市建設業会のボランティア活動の記事で、主催者発表の参加企業に誤りがあるとして訂正いたします。太田建設を追加して訂正いたします。

ICT施工システム（マシンコントロール/マシンガイダンス）
SITECH　Trimble Authorized Dealer
作業精度が容易な大画面モニターを搭載し、的確かつスムーズな施工をサポート！
従来のように丁寧な作業や検測作業が不要（最小限）で、作業時間の短縮化によって最大40%の生産性向上（当社調べ）が可能です。
マシンコントロール（MC）　マシンガイダンスシステム（MG）
施工目標面に対し、半自動でシャベルを制御。モニターの情報を見ながらの作業に加え、必要な操作を機械がサポート。誰の運転を問わず、スピーディーかつ効率よく整地作業が行えます。
モニターに施工目標面とバケット先端位置を表示して、オペレーターに必要な操作をガイダンス。正かつ的に深さまでの掘削や、一定角度の法面整形作業などが安心かつ効率的に行えます。
■ 3DMCシステム構成の例（トリンブル社製システム）
SH135X
SH235X
D3K　D21　MG230Ⅲ　12M3（4.3m）
HA90C
9.0m幅舗装作業時（最大舗装幅）
写真はオプション装着車

トータルステーション付保有機械

ブルドーザ	クレーン	切削機	バックホウ
D21P	MG230Ⅲ(3.1m)	W210	320E(0.7)
D3K	12M3(4.3m)		

ICT トータルステーション導入実績 H.25.6
生産性向上　常に出来高を確認しながら作業が出来るため、施工時間が短縮
施工品質向上　常に測定を行いながら施工するため、施工品質が向上
コスト削減　丁張と検測作業が不要になるため、人件費の削減
安全性向上　稼働中の機械周辺に検測作業員が立ち入る必要がないため接触事故防止、安全性向上
東和道路株式会社
ISO9001 ISO14001 ISO45001 認証取得
千葉市若葉区高品町 230-1　TEL 043-233-2271　FAX043-233-1194
http://www.touwadouro.co.jp/　touwadouro@mtf.biglobe.ne.jp